

## 夢は託児室のあるオフィスビル

女性副委員長  
菅野美奈子

女性副委員長、AISOHO企業組合の菅野(すがの)です。どうぞ宜しくお願い致します。

企業組合というと耳慣れない方もいらっしゃるかもしれませんが、企業組合は法人形態のひとつ、県知事認可法人で組合員4名以上、出資金の制限なし、中小企業と同じ法人税を払います。設立の経緯としては、平成13年に県の雇用対策の事業として「キャリア・マミーズ」というお

あさん達の団体が立ち上がったことに始まります。そして色々仕事を頂けるようになり、現在の企業組合を平成16年に設立することとなり、代表理事となりました。

現在の業務内容は、Web制作、音声起こし、データ入力、パソコン指導などですが、結婚出産後も自分の持っているスキルで仕事をした、子育てや介護をしながら仕事をしたい、という方のために在宅ワークができる環境を提供しています。



私自身も、四世代同居だったので祖父の昼ごはんを作りつつ仕事をしています。事務所で作業したり、自宅で作業をしたり、学校の行事に参加、NPO活動と24時間を上手く使っています。とはいえ、完全な両立は難しく、家族からは家事にもつと力を入れて欲しいと言われて

います。でも、たぶん私から家事をとったら会社はもっと繁盛するかも

しません。県の総合政策審議会の委員としての仕事は2年目となります。大学教授や大企業のトップの中に入って庶民及び子育て世代の代表として意見を言わせてもらっています。

倫理の活動に積極的に参加するようになったのは、外山委員長の下で役員となつてからです。モーニングセミナーに参加もしないで役員という訳にはいかず、また委員長をサポートしなければいけないの思いもあり、様々な活動に参加するようにになりました。

会社での倫理への取組は未だ未だです。在宅勤務の方が多いことや仕事の内容から当初朝礼は無理だと思っていました。しかし他社さんで「昼礼」の話などを聞いて、様々なやり方があるんだと考えが変わってきました。

倫理を学んで変わらなければならぬと思つたのが、一番身近な家族を大事にするということです。倫理を学ぶ前から、お客様はもちろん

役員とパートさんを大事にということまでは考えていました。しかしその前に一番身近な家族を大事にするというところまで考えは及んでいませんでした。本当は、仕事と家事を両立させ、家族を大事にするためのAISOHO企業組合なのに、ブログに「家庭と仕事の両立」と書いてあるのを見た家族から指摘があり気づきました。

ある時とても忙しい時期があり、子ども達に充分手作りのものを作つてあげられない事がありました。今思うととてもかわいそうな事をしました。子ども達は手作りのものを「うわあー」と言いながら喜んで食べます。子育てでも残り数年となつた今は、何が何でも食事を作つてあげようと思つています。

ところで、そもそも仕事を始めたきっかけは、結婚して嫁に入つて主婦をしていると、勤めている時のような昇進やお褒めの言葉を頂ける機会が少なくなつたからです。主婦は、ごはんからアイロンがけから全ての家事が上手に出来て当たり前でも私の場合は姑がいるおかげできちんと家事をするようになりま

したが、誉めてもらえない部分があったからこそ、現在のような運命に

あつたのかなと思います。女性委員会としては、MSに女性の参加者を増やそうとしています。が、やはり仕事や家事と男性以上に大変な部分はあるかと思ひます。また、女性経営者を増やすことも大事なことだと思つています。6月30日の女性委員会のセミナー講師の大場広美さんは、元々金田専任幹事のお知り合いですが、女性経営者の勉強会で知り合いになり、交流させて頂いています。

9月から始まる次年度は、県の女性委員長のご指名をうけました。頼まれ事は試され事と考へてお引き受けいたしました。それにしても、私を選ばなんて鈴木蔵王相談役もホントに凄いチャレンジャーですよ。

今後の夢は託児室のあるオフィスビルです。それはまだまだ叶いそうにありませんが、言っておくといつかは叶うのではと思つています。でも、それが実現するころには自分の介護ルームが必要になつてい

## 7月のMS

- 7月3日(土) 第319回  
『いつまでも自分の足でどこまでも』  
講師：フットヘルパー山形大場広美様
- 7月10日(土) 第320回  
『良い結果は原因づくりから』  
講師：(株)倫理研究所 法人スーパーバイザー 荒井久満様
- 7月17日(土) 第321回  
『大きな夢を持ち挑戦し続けること』  
講師：バンクーバー五輪出場 スキークロス選手 瀧澤宏臣様
- 7月24日(土) 第322回  
『草創と守文と執れが難き』  
講師：(株)大商 代表取締役社長 小野木重弥様
- 7月31日(土) 第323回  
『おやし出番だ』  
講師：おやし日本山形代表 和田英光様

# 6月のモーニングセミナー便り

## 「運命を拓くには」

(社) 倫理研究所  
参事 宮井 エイ子様

▼「どなたとでも仲良く出来ますか？完全に健康ですか？物を大切にしていますか？いかなる環境にも順応できますか？」以上の出来具合によって人生が拓かれる。

▼心が先行する。①「肯定と反省（陰と陽）」、在るがままの姿を認める。反省は自分の反省。②「向上心、前進」。前に進んでいくことが大切。信念、希望があるかないかで出来が変わる。強い信念を持つと影響しその通りになる。宇宙は陰と陽が行きかう。全てを受けきること。次に前進する、向上する。③「我を捨てる」。方法は親を大切にすることである。心の限界線。子に対する愛情を表現出来ない人も居る。逃げれば追いかけられる。逃げたらあかん。受け止める。人には無限の能力がある。④「利他の精神」。いろんなボランティアがある。人の利益を考える。空いているところを利用して徳を積む。宇宙には目に見えない銀行があり、良いことをすればその分預金できる。それが徳である。経営者は特にその徳が大切である。倫理の教えは徳を積むことである。経営も同じ。朝起きは太陽と直結できる。目覚めは宇

宙の力。⑤「言葉の力」。母親の思っているとおりになる。科学で証明できる。脳は思うことと現実の区別がつかない。人のことを思っても自分に還る。二通りの表現を使う。肯定する言葉。

## 「元気になる色の話」

千葉県倫理法人会 市原長夷地区長  
リブ・サンロード 代表  
藤橋 陽子様

▼元気の出る色はオレンジです。▼色によって、元気になってほしい、元気をわけてあげてほしい、女性には美しく輝いていただきたいです。▼皆さん好きな色、嫌いな色があると思いますが、好きな色が自分を引き立たせる似合う色とは限りません。似合う色をお召しになってきます。▼初対面の印象でビジネスも変わってきますので美容院で自分の似合う色を診断していただいたらいかがでしょうか。

## 「地域計画」

山形大学地域づくり研究会  
村松 真様

▼1人の力で、相当なことをやり遂げた人に言えること。強い信念で、夢を信じ、謙虚に続けると、次に試練が与えられる。やがて理解する人が出てくる、そして世の中に取り上げられ、急速に実現速度が速まる。しかし本人は相変わらず強い信念で夢を信じ謙虚に続けるといふ初心を忘れない。▼秋田

の老農、石川理紀之助はこう言った。「井戸を掘るなら水が湧くまで掘れ。寝ていて人を起こすな。かれ。進歩は厚い信頼の巣で育つ」と。

## 「山形まなび館・MONO SCHOOLについて」

山形まなび館・榎コロン  
萩原 尚季様

▼当社はJOYの文字を(喜び・嬉しさ)を変形させて石がコロコロと転がる様子をモチーフに、コロコロと命名し、スタッフ5名で設立いたしました。▼山形の铸件を知らしめるために、西部工業団地内の铸件組合館を活用して物をつくり売り場を設け、常に来館して頂ける場所を提供しています。

▼山形まなび館・MONO SCHOOLについては、「街を訪れる人々と地域住民の交流・学び舎・ものづくり支援」をコンセプトとして公募に応募し、今回受託事業者となりました。▼館内では「図書館・カフェレストラン」を常設し、体験教室「山形の伝統産業を取り入れたものづくり教室」を定期的開催「をしております。また、レストランでは、安価な商品の提供で、食育を考えた命の大切さを伝えております。▼これからの施設の活用については、ギャラリースペースを始めとして、「つくる・うる・みせる」を基底に考え、市報・WEB等で紹介しておりますので皆様のご参加宜しくお願い致します。



会長の元氣、モチアゲな話

第10回

## 喜働、実行、感謝

法人レクチャラーとして福島県相双倫理法人会の経営者の集い、翌朝のモーニングセミナーで話をする機会がありました。今年には北上市に続き2度目です。どちらにも山形の自然、産業、文化について県の100名山、河川、映画などから始まり、しっかりと地元PRをさせていただき倫理実践の話をしてきたところです。

白板に県の顔を書きだし、鳥海、月山、朝日、飯豊、西吾妻、そして蔵王熊野岳の高さ、最上川の長さ等の説明をしますと、この人は数字に強いと必ず言われます。お試し下さい。

帰ってすぐに相双川崎専任幹事(工務店経営)さんより礼状が届きました。ピククリしたのはその数日後またまた喜働、実行、感謝と題して再度お礼のハガキが届きました。

はじめの礼状をいただいた後すぐに地元のコマツレンタル福島からハウスの修理の引き合いがあり、時節柄仕事が少ない時でも助かったとのことでした。私は何をした訳でもないのですが縁とは不思議なものでね。相双に仕事運まで運んで行ったようです。

蔵王の今年度のスローガンは「感動と出合いの輪を揚げよう」ですが、こちらまで心が豊かになったのは言うまでもありません。(蔵王会長池田修二)

